



# 月刊 動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (222) 7207 番

92.7.17 No.3628

# 反戦・反核闘争の大高揚へ

## 8・6~9 広島・長崎現地闘争に決起しよう

今年も八月六・九日にかけて、広島・長崎現地で原水爆禁止大会が行われる。われわれ動力労千葉も、交流センターの仲間とともに、この行動に参加することを通して、現在のアジア侵略に道を拓くPKO情勢のなか、反戦・反核闘争の原点を再度確認しなければならぬと言え

る。原爆は、「パックスアメリカーナ」(アメリカのための、アメリカによる「平和」)をめざす格好の兵器として使用された。つまり「原爆による平和」の時代を選択したのである。アジアに対し凶暴な侵略戦争を行った日本帝国主義は、その戦争に敗北してなお、「天皇制護持」のためだけに、ポツダム宣言の受諾を黙殺し、原爆投下の悲劇を生みだした。そして、二千万人のアジア人民と、三〇万人の広島・長崎市民のしかばねの上に、天皇制は生きのびたのである。

「核による平和」の時代は、当然のごとく各国が先を争って核兵器開発を行うという状況を生みだした。現在「冷戦構造」が崩壊し、「核軍縮」の時代に入ったかのごとく言われているが、核戦略が廃

絶されたわけではなく、依然として、以前にもまして、「核による平和」という危機と支配が増大しているのである。核開発の重いツケは、広島・長崎だけでなく、「被爆」ということでは、最初のウラン採掘からチエルノブイリ原発事故まで、ありとあらゆる汚染と環境破壊、そして人体そのものを破壊してきた。

核兵器と原発は隣合わせのカードであり、表裏一体のものだ！その意味で言えば、日本は原発大国であり「日本の核武装」の可能性は、「自衛権の限度内であれば核兵器と通常兵器との区別はない」とする政府解釈を見ても、ありえないことではない。

PKOによって、何がなんでも自衛隊を海外へ派兵する。アジアでの権益を確保する。行きつく先は、「いつかきた道」。

八・六広島、八・九長崎闘争の持つ意義は、今日重大な意味を突きつけている。政府・自民党は、連合路線のもとに、原水爆禁止すら解体しようとしている。

反戦・反核闘争の大高揚を創りだすためにも、八・六・九広島・長崎現地闘争に決起しよう！

「核はいらぬ！」

「連合による原水爆禁止許すな」

「おせん」と「被爆」をもちたら

「北富士をカシラにつなぐな」(7/12北富士)

# 待望の機関誌 出来

動力労千葉 NO.15 1992.夏

特集

1. 破壊した分割・民営化
2. われわれの新たな課題
3. 50歳まで働ける労働条件を

学習コーナー

1. 「国際賃報」誌の取組を暴く
2. 二度と侵略の統をとらぬために

分割・民営化 五年を検証する

七月二日、北富士演習場内において、檜丸尾入合林強奪を粉碎

七月二日、北富士演習場内において、檜丸尾入合林強奪を粉碎

し自衛隊のカンボジア出兵を許さない北富士現地闘争が行われた。全国から三八〇名が結集し、動力労千葉も千葉交流センターの仲間たちとともに闘い抜いてきた。

北富士現地で闘いぬく忍草農民は、戦後四五五年間にわたって自衛隊の演習場として奪われた檜丸尾入合地を奪回するために文字どおり身体を張って闘いぬいている。

とりわけ、PKOの成立により北富士での自衛隊の演習はさらに激しくなることは明らかであり、北富士を絶対にカンボジアにつなげてはならない。檜丸尾入合地の強奪を阻止することは、侵略への道を阻むものである。

檜丸尾奪回・自衛隊出兵阻止へさらに闘いぬこう。